

## 第3次刈谷市地域福祉計画 総括

### 基本目標1 福祉への理解の促進

#### ① 施策の実施概要

施策の方向	主な取組	課題・今後の方向性
広報・啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民だより」や「刈谷市社協だより」、ホームページにおける各福祉制度やサービスの紹介</li> <li>・福祉・健康フェスティバル、各種講座やイベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや SNS、各種イベント等、多様な媒体や場を活用し、分かりやすい情報を発信する。</li> <li>・引き続き障害のある人や高齢者等と交流できる機会を提供することで、福祉への理解促進を図る。</li> </ul>
福祉教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室等の開催</li> <li>・認知症サポーター養成講座や出前講座等の開催</li> <li>・職員に対する福祉教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室では、学生の意識変化が把握できるようアンケートの見直しを検討する。</li> <li>・より多くの人々が各種講座に参加していただけるよう周知・啓発を行う。</li> </ul>

#### ② 成果指標（市民意識調査）の達成度

指標項目	H20	H25	調査結果 (H30)	目標値 (H30)	区分
福祉を学んだことがある人の割合	70.5	72.0	78.2	77.0	若年者
社会福祉協議会の認知度 (名前も活動も知っている)	13.4	12.6	15.4	18.0	20歳以上

※網掛けは目標達成項目

#### ③総括

- 福祉に関する周知・啓発や福祉教育、福祉関係団体との交流等を通して福祉への理解が進み、意識が変わっている。
- 一方、地域福祉や障害のある人、認知症等への理解を深める必要があるとの指摘もみられる。
- 高齢者、障害のある人、子ども等、全ての人が安心して暮らせる地域づくりを推進するためには、市や市社会福祉協議会の広報啓発活動とともに、地域住民同士で協力し合いながら、継続して地域福祉の意識啓発を進めることが必要。

## 基本目標 2 支え合いのしくみづくり

### ① 施策の実施概要

施策の方向	主な取組	課題・今後の方向性
地域福祉を支える人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座の開催</li> <li>・ボランティアコーディネーターやまちづくりコーディネーターの養成講座の開催</li> <li>・ボランティアセンターの運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに関する講座終了後に、実際のボランティア活動につながるよう支援する。</li> <li>・新たなボランティア人材の発掘、育成に取り組む必要がある。</li> </ul>
地域のネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援団体のネットワーク、ボランティアと福祉施設とのネットワーク、子どもを含めた地域での福祉活動の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体間相互の交流の促進を図る必要がある。</li> <li>・所管課の垣根を超えた連携を強化する。</li> </ul>
住民主体による地域課題を解決する場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社会福祉協議会の活動支援</li> <li>・コミュニティソーシャルワーカーの配置（3人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き地区社会福祉協議会や福祉委員会の活動、福祉委員会の設立を支援する。</li> </ul>

### ② 成果指標（市民意識調査）の達成度

指標項目	H20	H25	調査結果(H30)	目標値(H30)	区分
ボランティア活動への参加割合 (活動中+参加経験あり)	34.8	26.4	39.3	40.0	20歳以上
ボランティア活動への参加割合 (活動中+参加経験あり)	59.0	61.0	77.1	66.0	若年者

※網掛けは目標達成項目

### ③ 総括

- 地域においては近所づきあいが乏しいことや地域福祉活動の担い手がない、後継者がいない等の状況がみられる。
- 今後は、地域福祉活動におけるボランティアの意義を広く啓発するとともに、活動に参加したいと思う市民が参加しやすいしくみづくりや団体同士がネットワークづくりに取り組む等、地域福祉活動を行いやすいしくみづくりが必要。

## 基本目標 3 地域における福祉サービスの充実

### ① 施策の実施概要

施策の方向	主な取組	課題・今後の方向性
集いの場づくり	・高齢者、障害のある人、親子、子ども等が気軽に集える場の提供（老人いこいの場、地域活動支援センター、子育て支援センター、放課後子ども教室等）	・地域の方が参加しやすい行事やイベントを企画運営する必要がある。 ・利用者のニーズ把握に努め、支援の拡充や魅力ある場づくりを推進する。
生活支援サービス等の構築	・生活支援に関するサービスの実施（配食、ごみ出し、タクシー利用助成等）	・支援が必要な人に支援が行き届くよう様々な手段を用いて周知・啓発に努める。
社会福祉を目的とする事業の充実	・医療、福祉、介護、教育等の各分野の連携による高齢者、障害のある人、子どものケア体制の推進 ・福祉サービスに関わる職員への研修	・支援者の知識や経験の充実に努める。 ・福祉サービスを提供する職員の確保や事業所が参入しやすい環境整備に努める。

### ② 成果指標（市民意識調査）の達成度

指標項目	H20	H25	調査結果(H30)	目標値(H30)	区分
刈谷市の福祉水準が高いと感じる割合（非常に高い＋やや高い）	15.1	15.7	20.9	21.0	20歳以上
刈谷市の地域福祉が進んだと感じる割合（非常に進んだ＋やや進んだ）	—	15.4	16.9	21.0	20歳以上

### ③ 総括

- 高齢者、障害のある人、子ども等、対象者ごとに対応する集いの場づくりは進んでいる。
- 今後は、対象を区別しない、異種、異世代の住民同士による交流の場づくりをさらに充実させることが必要。
- 複雑化・多様化する住民の生活課題を解決するため、個々のニーズに合った様々なサービスが提供されるよう、適切なサービスを総合的に提供できるしくみづくりや環境づくりを推進する。

## 基本目標 4 地域での見守りと権利擁護の推進

### ① 施策の実施概要

施策の方向	主な取組	課題・今後の方向性
地域の見守り活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員・児童委員の活動支援</li> <li>・高齢者サロン・子育てサロン活動の支援</li> <li>・スクールガード等による子どもの見守り</li> <li>・防犯パトロール隊の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員・児童委員については、地域の身近な相談役としての機能を十分に果たせるよう活動内容の周知・啓発を図る。</li> <li>・地域の特性に応じた取組の推進が必要。</li> </ul>
災害時における要支援者への対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者名簿の情報提供</li> <li>・災害時要配慮者への支援の必要性の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災時における避難支援の実効性を高められるよう支援体制の充実を図る。</li> </ul>
相談体制の充実と権利擁護の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談事業の充実（基幹相談支援センター（障害）、地域包括支援センター（高齢）、子育て支援センター（子育て））</li> <li>・成年後見制度の普及・啓発、相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数の増加や複雑化・多様化する相談に対応できるよう、今後も相談体制の充実を図り、適切な支援へつなげる。</li> <li>・必要な人が制度を利用できるよう成年後見制度の周知に努める。</li> </ul>
生活困窮者の自立支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援法に基づく各種支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者への支援は早期の段階での支援が有効であるため、地域や関係機関が連携して各種相談窓口へつなげられる体制が必要。</li> </ul>

### ② 成果指標（市民意識調査）の達成度

指標項目	H20	H25	調査結果(H30)	目標値(H30)	区分
地域包括支援センターの認知度 (名前も活動も知っている)	7.3	9.2	16.5	15.0	20歳以上
民生委員・児童委員の認知度 (委員も活動内容も知っている)	8.1	6.7	10.2	12.0	20歳以上
自主防災組織の認知度 (名前も内容も知っている)	13.7	13.7	27.1	19.0	20歳以上

※網掛けは目標達成項目

### ③ 総括

- 困りごとや必要とされる支援内容が複雑化・多様化しているため、悩みや問題を抱える方がどこに相談すればよいか分からないといったことがないよう、福祉サービスに関する情報提供を充実させる必要がある。
- 高齢の親とひきこもりの子ども、障害と生活困窮等の複合的な課題や、制度の狭間に位置する課題に対する包括的な支援体制を整備していくことが必要。
- 防犯や防災とも連携した福祉のまちづくりへの取組を進め、安心して安全に暮らせる地域づくりを進める。

## 6つの重点的な取組み

### 1 障害のある人等への理解の促進

- 市民だよりへの記事の掲載、企業担当者に対するセミナーの開催、あるいはボッチャ等ユニバーサルスポーツを通じた障害のある人との交流、小中学校における福祉に関する授業等により、障害や障害のある人に対する理解促進を図った。
- 認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座の開催、はいかい高齢者搜索模擬訓練の実施等により、認知症の人を社会全体で支える体制づくりを推進した。
- 福祉教育の経験が、ボランティア活動への参加や福祉に対する理解の促進につながるよう、取組を推進する必要がある。

#### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分		計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
ボランティア体験学習	参加者数	326人	330人	335人	340人	345人	350人	社会福祉協議会
	目標値		412人	358人	366人	395人	414人	
児童・生徒福祉実践教室	アンケート結果 (理解できた割合)	—	50%	55%	60%	65%	70%	社会福祉協議会
			目標値	92%	93%	93%	93%	
児童・生徒等のボランティア 育成事業	アンケート結果 (理解できた割合)	—	50%	55%	60%	65%	70%	社会福祉協議会
			目標値	94%	100%	97%	100%	

### 2 ボランティアの育成支援

- ボランティアに関する運営支援や相談支援等を継続的に実施できたことから、刈谷市民ボランティア活動センター、市社会福祉協議会ボランティアセンターに登録されている団体数は増加傾向となっている。
- 新たなボランティアの担い手の発掘や個人ボランティアが活動できるよう、多様な媒体による情報提供や効果的な活動支援を行う必要がある。

#### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分		計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
ボランティア情報の発信	発信回数	—	2回	4回	4回	6回	6回	社会福祉協議会
			目標値	2回	4回	4回	6回	
定年退職者等へのボランティア 案内	実施回数	未実施	1回	2回	2回	4回	4回	社会福祉協議会
			目標値	0回	2回	2回	4回	
ボランティアコーディネーター 養成講座の受講者数	延べ受講者数 (平成18年度以降)	12人	13人	14人	15人	16人	17人	社会福祉協議会
			目標値	14人	15人	17人	18人	
ボランティア団体活動費助成	助成団体数	75団体	76団体	81団体	82団体	89団体	90団体	社会福祉協議会
			目標値	75団体	77団体	82団体	85団体	

### 3 地区社会福祉協議会の設立支援

- 計画期間中に、南部地区社会福祉協議会、中部地区社会福祉協議会が設立され、北中南すべての地域で地区社会福祉協議会が設立された。
- 引き続き、各地区社会福祉協議会や福祉委員会の活動を支援するとともに、福祉委員会が設立されていない地区に対しても支援を行う。

#### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分		計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
地区社会福祉協議会	北部	目標値	設立済					社会福祉協議会
		実績						
	南部	目標値		準備	設立			社会福祉協議会
		実績		準備	設立			
	中部	目標値				準備	設立	社会福祉協議会
		実績				準備	準備	

### 4 サロンづくりの推進と生活支援サービス等の構築

- 高齢者サロンや子育てサロン、子育て支援団体に対する補助金の交付や、団体間の交流を支援することで、地域の支え合いの体制づくりや地域交流の促進に寄与した。
- ひとり暮らしの高齢者等を対象としたなごやか交流会を実施し、孤独感の解消と健康保持を図った。今後は、高齢者だけでなく、異世代の交流や障害のある人との交流もできる場の提供を検討する。

#### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分		計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
高齢者サロン実施団体	団体数	目標値	27団体	29団体	29団体	32団体	32団体	社会福祉協議会
		実績	27団体	25団体	28団体	29団体	29団体	
子育てサロン実施団体	団体数	目標値	11団体	11団体	13団体	13団体	16団体	社会福祉協議会
		実績	11団体	10団体	8団体	8団体	8団体	
なごやか交流会	参加者数	目標値	423人	425人	430人	435人	440人	社会福祉協議会
		実績	423人	477人	427人	423人	404人	
高齢者サロン、子育てサロン実施団体間の交流	参加団体数	目標値	6団体	8団体	10団体	12団体	14団体	社会福祉協議会
		実績	6団体	14団体	7団体	12団体	10団体	

## 5 地域における避難行動要支援者等の支援と見守り体制の充実

- 避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援等関係者に提供した。今後は、平常時からの避難支援対策として、避難行動要支援者名簿の活用促進や避難支援等関係者との連携強化を図る必要がある。
- 高齢者見守り協定の締結や配食サービスの実施により、高齢者を見守る体制を強化した。

### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分			計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
避難行動要支援者名簿		目標値	作成	更新	更新	更新	更新	更新	危機管理課 福祉総務課 長寿課
		実績		更新	更新	更新	更新	更新	
災害ボランティアコーディネーター養成講座	延べ修了者数	目標値	273人	303人	333人	363人	393人	423人	危機管理課 社会福祉協議会
		実績		319人	357人	396人	422人	455人	
災害ボランティアコーディネーター	延べ登録者数	目標値	94人	104人	114人	124人	134人	144人	危機管理課 社会福祉協議会
		実績		126人	143人	158人	168人	183人	

## 6 権利擁護の推進

- 成年後見制度に関する手続支援、普及啓発、相談、助成等により、成年後見制度の利用促進を図った。
- しかしながら、制度の利用者は少ないため、必要な人が適切な支援を受けられるよう、引き続き、周知・啓発を行う。
- 日常生活の判断に不安のある人に対し日常生活に関する相談や支援を行った。また、各種団体に向けた勉強会を開催し、事業の周知を図った。

### ■ 年度別目標及び実績

※目標値は計画策定時に定めた指標です。 ※目標を達成した実績に網掛けしています。

区 分			計画策定時 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	担 当
成年後見支援センター		目標値	準備	設置					福祉総務課 社会福祉協議会
		実績		設置					
法人後見	受任件数	目標値	—	5人	6人	7人	8人	9人	社会福祉協議会
		実績		0人	0人	0人	0人	0人	
日常生活自立支援事業	契約者数	目標値	33人	34人	35人	36人	37人	38人	社会福祉協議会
		実績		34人	35人	36人	34人	36人	